

日本免疫毒性学会 2022 年総会審議記録

1. 日時等

- 形式：第 29 回大会時に対面で開催
- 日程：2022 年 9 月 12 日（月）13:00~13:30
- 会場：AUC 札幌アスティ 45、メイン会場（1614）
審議事項回答期限：9 月 14 日（火）13:00

2. 審議結果：

2.1. 審議事項

参加 41 名の賛成により可決

- 会計（2021 年度決算、2021 年度監査報告、2023 年度予算）
- 役員等規定改定
- 人事（次期理事、名誉会員・特別名誉会員、新評議員、次期年会長交代、次々期年会長）
- 事業計画

2.2. その他

意見無し

日本免疫毒性学会 2022年 総会

議事次第

I. 理事長挨拶（中村理事長）

II. 報告事項

[1] 総務報告（久田）

- ① 会員数、入退会状況
- ② 役員数
- ③ 学会Webサイトバナー契約現状
- ④ 理事推薦投票、評議員推薦
- ⑤ 事務局業務外部委託、他

[2] 学術年会報告

- ① 第28回開催報告（手島前年会長、代・久田）
- ② 第29回開催報告（小島年会長）

[3] 委員会報告

- ① 学術・編集委員会（小島委員長）
 - (1) ImmunoTox Letter 発刊
 - (2) 学会賞・奨励賞選考
- ② 広報委員会（西村委員長）
- ③ 試験法委員会（串間委員長）
 - (1) 試験法ワークショップ
 - (2) AOP小委員会
 - (3) JaCVAM関係
- ④ 連携学会委員会（吉岡委員長）
 - (1) JTSS Newsletterへの寄稿

(2) 第30回学術年会における特別講演

(3) SOTとの国際交流：SOT2024におけるシンポジウム

(4) 毒性学会（2023年）での合同シンポジウム

⑤ 将来構想委員会（黒田委員長）

(1) 運営委員任期に関する内規

(2) 入会初年度の年会費無料制度と入会状況

[4] 事業報告（中村理事長）（業務年度：10月から翌年9月末）

III. 審議事項

[1] 会計（小池理事）（会計年度：4月から翌年3月末）

- ① 2021年度決算案
- ② 2021年度監査報告
- ③ 2022年度修正予算（参考）
- ④ 2023年度予算案

[2] 役員等規定改定

[3] 人事（総務・久田）

- ① 次期理事
- ② 名誉会員・特別名誉会員
- ③ 新評議員
- ④ 次期年会長交代
- ⑤ 次々期年会長

[4] 事業計画（中村理事長）

IV. 次期、次々期 年会長挨拶

報告事項

事務局報告 (1)

会員動向 & 会費納入状況

◆2021年度の会員数(2021/4~2022/3)

会員種別	4月	3月	増減
一般会員	162	169	7
学生会員	10	16	6
賛助会員	1	1	0
名誉会員	12	12	0
総数	185	198	13

◆2022年度の会員数(8月31日現在)

会員種別	4月	8月	増減
一般会員	152	164	12
学生会員	7	17	10
賛助会員	1	1	0
名誉会員	12	12	0
総数	172	194	22

◆2021年度入退会(2021/4~2022/3)

会員種別	入会	退会	増減
一般会員	7	17	-10
学生会員	6	9	-3
賛助会員	0	0	0
総数	13	26	-13

◆2022年度入退会(8月31日現在)

会員種別	入会	退会	増減
一般会員	12	0	12
学生会員	10	0	10
賛助会員	0	0	0
総数	22	0	22

退会者のうち一般8名、学生9名は会則(会員)第5条(2)により退会(会費未納による退会)

一般会員12名中6名が初年度会費無料の会員

◆2021年度末会費納入状況

	3月末
未納なし	153
未納あり	28
合計	181

* 会費納入は名誉会員と5名の初年度年会費無料会員を除く

◆2022年度末会費納入状況

	8月
未納なし	118
未納あり	58
合計	176

* 会費納入は名誉会員と6名の初年度年会費無料会員を除く

役員数

◆2021年役員

	4月	10月	3月
理事	20	20	20
評議員	48	49	49
監事	2	2	2

◆2022年役員

	4月	10月	3月
理事	20	20	-
評議員	47	38	-
監事	2	2	-

バナー広告

現在掲載中 (1社)	フォーネスライフ株式会社	5/1更新
解約	ライカマイクロシステムズ株式会社	4/30解約
	ミルテニーバイオテク株式会社	4/30解約

Japanese Society of Immunotoxicology

ImmunoTox Letter

新着情報

◀ Letter Vol.27 No.1 更新しました
 掲載を 更新しました
 ▶ Letter Vol.26 No.2 更新しました
 大会 更新しました
 目 録 更新しました

お知らせ 次々回 年会のお知らせ

学術年会
 月) ~13日 (火) 予

45

3

事務局報告（2）

理事推薦投票、評議員推薦

- 2021年度で理事の任期（3年間）満了になることから、2022年6月1日から30日にかけて評議員による理事候補の推薦投票（10名）を実施した。これをもとに理事長から指名された20名（評議員からの得票上位20名）について運営委員会（2022年7月26日）さらに理事会（2022年9月11日）において了承されました。総会（2022年9月12日）において承認を得ます。
- 評議員候補につきましては、2022年7月11日から8月16日の期間、評議員2名による推薦を受け付けました。運営委員会（2022年7月26日）さらに理事会（2022年9月11日）において推薦候補として了承され、総会（2022年9月12日）において承認を得ます。

事務局業務の外部委託

- 山浦理事から総務の事務作業の外部委託（費用見積、引継ぎ）の提案があり、運営委員会（2022年7月26日）で了承され、理事会（2022年9月11日）に報告されました。
 - コストや条件面で創文印刷工業株式会社（株式会社ソウブン・ドットコム）が候補に上がった。
 - 会員管理には現行のシクミネットを利用し、年間費用の見積額は387700円である。財源としては会議費削減等で充当できる見込み。

その他

- 名誉会員規定を作成し、2022年4月1日付で会員に周知しました。
- 会員の異動、会員（名誉・一般・学生・賛助会員・休会員）数の推移と会費納入状況の把握、自動退会（会費未納退会）の整理等の事務
- 外部からの問い合わせ対応

学術年会報告 2021年@岡山（ウェブ開催）

第28回
日本免疫毒性学会学術年会
The 28th Annual Meeting of the Japanese Society of Immunotoxicology

共同開催 第78回日本産業衛生学会アレルギー・免疫毒性研究会

2021年
日教 **9月6日(月)～7日(火)**

会場 **ウェブ開催**

年会長 **手島 玲子**
(岡山理科大学獣医学部食品衛生講座)

自然免疫と獲得免疫のかかわりと免疫毒性

主催：日本免疫毒性学会
共催：日本産業衛生学会アレルギー・免疫毒性研究会
協賛：日本衛生学会、日本食品衛生学会、日本毒性学会、日本毒性病理学会、日本薬学会(50名額)
後援：日本アレルギー学会

〒794-8555 岡崎県今治市いこいの丘1-3
岡山理科大学獣医学部食品衛生講座
本会HP <http://www.jsit2021.jp>
E-mail 28th-info@jsit2021.jp

期日	2021.9.6-7
会場	ウェブ開催（岡山理科大Zoom webinarシステム、ポスターオンデマンド配信を使用）
年会長	手島 玲子 岡山理科大学獣医学部食品衛生講座
テーマ	自然免疫と獲得免疫のかかわりと免疫毒性
年会賞	国立医薬品食品衛生研究所生物薬品部 青山道彦
学生・若手優秀発表賞	和歌山県立医科大学先端医学研究所 加藤喬
同時開催	第78回日本産業衛生学会アレルギー免疫毒性研究会
共催	日本産業衛生学会アレルギー免疫毒性研究会
協賛	日本衛生学会・日本食品衛生学会・日本毒性学会・日本毒性病理学会・日本薬学会
後援	日本アレルギー学会
参加登録者数	101名
演題数	ポスター23、口頭7、計30題
講演	受賞講演2、シンポジウム3、試験法WS3、特別講演2、教育講演2

学術年会報告 2022年@札幌

期日	2022 .9.12-13
会場	AUC札幌
年会長	小島 弘幸 北海道医療大学薬学部衛生薬学講座・教授
テーマ	免疫毒性と疾患 - 新たな軌跡を描く -
同時開催	第79回日本産業衛生学会アレルギー免疫毒性研究会
共催	日本産業衛生学会アレルギー・免疫毒性研究会
協賛	日本衛生学会・日本食品衛生学会・日本毒性学会・日本毒性病理学会・日本薬学会
後援	日本アレルギー学会
演題数	ポスター 22、口頭 17、計 39
講演	受賞講演 3、シンポジウム 6、試験法WS 4、特別講演 2、教育講演 2
事前登録参加	会員 62、非会員 18、学生 13、計 93名

委員会報告 学術・編集委員会

1. 学会賞・奨励賞選考結果

学会賞・奨励賞選考小委員会（委員長、手島玲子先生）で選考が行われ、理事会の承認を得て、第12回（2022）の受賞者は下記の通りに決定した。

学会賞 **姫野誠一郎** 先生（昭和大学薬学部・社会健康薬学講座衛生薬学部門）

※ヒ素曝露による健康被害における免疫機能の攪乱

奨励賞 **久保千代美** 先生（中外製薬株式会社トランスレーショナルリサーチ本部安全性研究部）

※バイオ医薬品開発におけるヒト安全性予測向上を目指した非臨床免疫毒性・免疫原性研究

室本竜太 先生（北海道大学大学院薬学研究衛生化学研究室）

※mRNA安定性制御機構を介する免疫毒性の研究

2. ImmunoTox Letter 発刊

（WEBに open access、MLにて会員への案内、WEBに掲載）

通巻52号（26巻2号） 2021年12月発刊

- 第29回日本免疫毒性学会学術年会（予告1）
- 第28回日本免疫毒性学会学術年会報告
- 第28回日本免疫毒性学会学術年会 年会賞、学生・若手優秀発表賞
- シリーズ：免疫毒性研究の若い力 24

通巻53号（27巻1号） 2022年6月発刊

- 第29回日本免疫毒性学会学術年会（予告2）
- 第11回日本免疫学会学会賞、第11回日本免疫毒性学会奨励賞
- シリーズ：免疫毒性研究の若い力 25
- Short talks on the shoulders of giants

1. 学会HPの更新

- 学会賞・奨励賞募集の案内 (2021.12.15) J
- 役員の追加 (黒石智誠先生) (2021.12.15) JE
- 第28回学術年会概要掲載依頼 (2021.12.20) JE
- 学会賞、奨励賞、受賞者の掲載 (野原恵子先生、立花雅史先生) (2021.12.23) J
- 第28回学術年会記録の掲載 (手島玲子大会長, 2021.9.6-7) (2021.12.23) J
- ImmunoTox Letter Vol.26 No.2の掲載 (2021.12.23) JE
→ 学術年会予告その2を別途掲載 (html)
- トップページに第29回学術年会のhomepageリンクを掲載 (2021.12.24)
- 名誉会員規定の更新(令和4年4月1日改定) (2022.4.1) J
- ImmunoTox Letter Vol.27 No.1の掲載 (2022.6.29) JE 等

2. 新HPリンクバナー広告の現状

- ミルテニー、ライカは、2022年4月30日をもって契約終了
- フォーネスライフは契約更新、現在1社のみ

3. JSIT HPのアクセス分析 (Googleアナリティクス, 2021年12月21日-2022年7月26日)

- 前年と比べアクセス全体は大きな変化はない。
- これまで前年同期と比べて増加の一途であったadmission (新規入会ページ) には陰り (506→312、62%) が見えてきた。
- ImmunoTox Letterのページビューは減少の一途で有あり、打開策が喫緊の課題である。

4. 学会Facebook pageによる発信

- 学術年会の情報などについて投稿し発信してきた。
- <https://www.facebook.com/j.immunotox>

5. 学会Twitterアカウントによる発信

- フォロワーは増加 (55→64) した。また、関連する組織や団体のアカウントとの相互フォロー (33→42) も増加した。
- https://twitter.com/js_immunotox

6. 未完了のHP改定作業

- 総会議事録掲載
- HPの整理と「技術情報」欄の新設

委員会報告 試験法委員会 (1)

試験法WS 9/13 14:30 – 16:30

「医薬品分子様式の多様化から見えてきた免疫毒性評価の課題」

- **新日本科学におけるカニクイザルを用いた In Vitro免疫毒性試験の現状**：(株)新日本科学 高橋 義博
- **抗体医薬のin vitro cytokine release assayによる評価の課題と考察**：第一三共 (株) 間 哲生
- **抗体医薬の免疫毒性評価の課題**：中外製薬 (株) 久保 千代美
- **遺伝子、核酸医薬の免疫毒性評価の課題**：アステラス製薬 (株) 松村匠悟
- **総合討論**

* 総合討論に向けたアンケート調査を実施した。

免疫毒性AOP開発

1) カルシニューリン阻害によるTDAR抑制に関するAOP

- 2015年から開発を開始した。
- 2021年10月15日：OECD iLibraryにおいて公開されたためAOP154開発の活動は終了。

2) 開発中のAOP

- 現在、以下の3件のAOPを開発している。
 1. JAK3阻害によるTDAR抑制：吉田安宏、福山朋季、後藤玄
コーチコメントを基にAOP wikiを修正し、コーチとDeveloperが内容合意後にOECDへCoach leadから連絡し、EAGMSTのapprove後にscientific reviewがオーガナイズされる。
 2. Toll用受容体 (TLR) 7/8活性化による乾癬様皮膚疾患の誘発：小松弘幸、秦信子、松村匠吾
コーチコメントをもとにAOP wikiを修正中。
 3. エストロゲン受容体活性化による全身性エリテマトーデスの増悪：大坪靖治、小西寿美恵、伊藤志保、田食理沙子
ジャーナルへの投稿を検討しており、投稿先を選定中。

3) JaCVAMの依頼により開発を引き継ぐ

- Impaired IL-1R1 signaling leading to increased susceptibility to infection
足利, 大石, 串間先生でreview reportの指摘事項について対応方針を決定。修正した案を足利先生に提出。相場先生, 木村先生に内容を確認依頼予定。

委員会報告 試験法委員会 (2)

AOP活動の外部発表 (予定)

- 最終化されたAOP154について、次号のImmunoTox Letterへ寄稿する (杉本先生執筆)。
- 10月：有害大気汚染物質の健康リスク評価手法に関するセミナー
- 11月：日本動物実験代替法学会 シンポジウム
- 12月：医薬品毒性機序研究会

JaCVAM(Japanese Center for the Validation of Alternative Methods)関係

- JaCVAMステークホルダー会議に参加 (6月10日)
MITAアッセイやAOP活動等, 今後も連携を継続。
- IL-2 Luc LTTアッセイのOECD Test guidelineに向けたバリデーションのpeer reviewレビューアを推薦

SOT/ITSSとの国際交流

- ◆ ITSS Newsletter
久保千代美先生（中外製薬）の寄稿文が掲載された。
- ◆ 第30回日本免疫毒性学会学術年会（2023年）における特別講演
 - 2022年9月～11月頃にDr. Mitchell Cohenに連絡
 - 第29回（2022年）はDr. Jamie DeWitt（East Carolina University）（2018–2019のITSS President）
- ◆ SOT2024におけるシンポジウム
 - 2023年5月頃が応募締め切りになる予定
 - 2023年1月頃よりITSSと連携して内容などを決定していく。
 - SOT2023に参加し、ITSSメンバーと詳細を議論するのが望ましい。
 - SOT2023へは応募していない。

日本毒性学会との共同セッション

- ◆ 第50回日本毒性学会（2023年）で合同シンポジウムを開催予定
- 第50回日本毒性学会学術年会
会期：2023年6月19日～21日
会場：パシフィコ横浜 会議センター
年会長：北嶋 聡（国立医薬品食品衛生研究所）
- 2022年9月頃に合同シンポジウム案を作成し、準備を進める。

委員会報告 将来構想委員会

1. 運営委員の任期に関する内規

任期を定めるのは、運営委員会に参加する運営委員（各委員会の委員長）のみとし、各委員会の委員としての活動（および理事としての活動）は継続できる。

<内規>

- 運営委員の任期は1期3年とし、最長連続2期までとする。ただし、理事長に就任する場合はその限りではなく運営委員長に就くことができる。
- 任期終了後3年間は運営委員への再任は認められない。
- 任を解かれたのち、必要に応じて1年間のみオブザーバーとして運営委員会に参加することができる。

2. 入会初年度の年会費無料制度と入会状況

学術年会	入会初年度年会費無料発表者	その後入会者	正規一般会員入会者
25回(つくば)	6	1	6
26回(北九州)	8	1	6
27回(Web)	8	0	11
28回(Web)	5	4	2
29回(札幌、8/31現在)	6	?	6

3. 初年度年会費無料制度で入会後に退会される方へのアンケートと一般会員へのアンケート

年会費無料制度を利用し、その後退会された方へのアンケート案を作成している。さらにこれをベースに、本学会員へのアンケートも実施したい。

日本免疫毒性学会事業報告（2021年10月から2022年9月）

1. はじめに

第28回学術年会（2021年9月6日～7日）はオンライン開催でしたが、今年度の第29回学術年会（2022年9月12日～13日）は対面での開催となりました。第61回米国トキシコロジー学会年会（2022年3月）における米国トキシコロジー学会免疫毒性専門部会（SOT-ITSS）との共同シンポジウムは見送りとなりました。第62回米国トキシコロジー学会年会（2023年）での提案にもなされず残念な年となりました。日本毒性学会との合同シンポジウムは、隔年で実施されるため今年度第49回日本毒性学会学術年会（2022年6月）での開催はありませんでした。JaCVAMから委託を受けた事業に関しては今年もAOP開発に多くの学会員が関わり貢献しました。2021年度の活動につきまして、以下にご報告いたします。

2. 事業（2021年10月から2022年9月まで）

1) 運営委員会の開催

2021年12月21日と2022年7月26日にリモートで開催されました。

2) 理事会の開催

2022年9月11日に、札幌で開催されました。

3) 総会の開催

2022年9月12日に、学術年会にあわせて対面で開催されました。

4) 第29回日本免疫毒性学会学術年会の開催

第29回日本免疫毒性学会学術年会は、2022年9月12日（月）～13日（火）に対面で開催されました。年会長は小島弘幸 理事（北海道医療大学薬学部 衛生薬学講座）で、テーマは「免疫毒性と疾患－新たな軌跡を描く－」でした。

URL：https://www.jsit2022.jp

5) ImmunoTox Letterの発行

下記の2号（日本語版、英語版）を刊行しました。

26巻第2号（通巻52号、2021年12月号）

27巻第1号（通巻53号、2022年6月号）

6) 第12回（2021年度）学会賞及び奨励賞の授与

学会賞は姫野誠一郎先生（昭和大学薬学部・社会健康薬学講座衛生薬学部門）に、奨励賞は久保千代美先生（中外製薬株式会社 トランスレーショナルリサーチ本部安全性研究部）と室本竜太先生（北海道大学大学院 薬学研究院衛生化学研究室）に授与しました。それぞれ記念品が授与されました。

7) 第30回日本免疫毒性学会学術年会（2023年）の開催準備

期日および会場については2022年10月頃に決定される見込みです。

期日：2023年9月

会場：Shimadzu Tokyo Innovation Plaza（川崎市殿町）あるいは川崎市産業振興会館

年会長：齋藤嘉朗（国立医薬品食品衛生研究所 医薬安全科学部、交代予定）

実行委員長：中村亮介（同上）

テーマ： 社会に求められる新たな免疫毒性研究

8) 第62回米国トキシコロジー学会年会（2023年3月、Nashville）での共同シンポジウム

SOT-ITSSとの共同シンポジウムとして“Immunotoxicity of essential and non-essential metals by environmental and occupational exposure”を立案しましたが、SOT本部への提案には至りませんでした。

9) 第31回日本免疫毒性学会学術年会（2024年）

第31回日本免疫毒性学会学術年会の年会長については、理事会（2022年9月11日）において黒田悦史 先生（兵庫医科大学 免疫学講座）が推挙されました。

10) 関連学会等との連携企画の開催

第29回免疫毒性学会学術年会は、第79回日本産業衛生学会アレルギー・免疫毒性研究会との共催といたしました。

第50回日本毒性学会学術年会（2023年、開催）における日本免疫毒性学会合同シンポジウムの準備を始めています。

3. 事務局及び諸委員会の活動

以下の活動を行いました。

1) 事務局（山浦理事）

・理事・評議員候補の推薦

2022年6月1日から30日にかけて評議員による理事候補の推薦投票（10名）が行われました。これをもとに理事長から指名された20名（評議員からの得票上位20名）について運営委員会（2022年7月26日）さらに理事会（2022年9月11日）において了承されました。総会（2022年9月12日）において承認を得ます。評議員候補につきましては、2022年7月11日から8月16日の期間、評議員2名による推薦を受け付けました。運営委員会（2022年7月26日）さらに理事会（2022年9月11日）において推薦候補として了承され、総会（2022年9月12日）において承認を得ます。

・山浦理事から総務の事務作業の外部委託（費用見積、引継ぎ）の提案があり、運営委員会（2022年7月26日）で了承され、理事会（2022年9月11日）に報告されました。

・名誉会員規定を作成し、2022年4月1日付で会員に周知しました。

・会員の異動、会員（名誉・一般・学生・賛助会員・休会員）数の推移と会費納入状況の把握、自動退会（会費未納退会）の整理等の事務；外部からの問い合わせ対応

2) 財務(委員長：小池理事)

・財務管理、決算書及び予算書の作成

3) 学術・編集委員会(委員長：小島理事)

学会賞、奨励賞推薦の取りまとめを行いました。また新藤編集委員長のもとImmunoTox Letterの編集・発行を年2回行い、学会ホームページに掲載するとともに、会員に対してメールマガジンにて周知を図りました。

4) 広報委員会(委員長：西村理事)

継続して学会ホームページの更新を行い、英文ホームページの充実にも努めました。前年と比べアクセス数に大きな変化はありませんが、ImmunoTox Letterのページビューの減少が続いています。学会Facebookページ、Twitterアカウントjs_immunotoxからの発信も積極的に行いました。

5) 試験法委員会(委員長：串間理事)

第29回免疫毒性学会学術年会での試験法ワークショップ「医薬品分子様式の多様化から見てきた免疫毒性評価の課題」を企画しました。このワークショップに先立ち、企業に所属されている学会員の先生方に対してモダリティの多様化に伴って生じている免疫毒性評価の課題に関するアンケート調査を実施しました。

AOP小委員会(委員長：大石 巧 委員)

JaCVAMから日本免疫毒性学会が作成依頼を受けたOECD AOP（Adverse Outcome Pathway）における免疫毒性に関する5件のAOP開発に関して、14名の本学会員からなるAOP小委員会が対応しました。

6) 連携学会委員会(委員長：角田理事、吉岡理事)

第28回日本免疫毒性学会学術年会を第78回日本産業衛生学会アレルギー・免疫毒性研究会との共催としました。SOT-ITSSのMitchell Cohen先生の協力のもと、第29回日本免疫毒性学会学術年会（2022年）の特別講演にJamie DeWitt教授（Department of Pharmacology & Toxicology, Brody School of Medicine, East Carolina University）を指名しました。小島年会長の招聘に応え、DeWitt先生から講演の承諾を得ました。第63回SOT年会（2024年）に向けてSOT-ITSSとの共同シンポジウムを企画し提案する予定です。

7) 将来構想委員会(委員長：黒田理事)

「非会員の入会初年度年会費無料制度」は会員増加に寄与しています。第28回年会での非会員発表者5名のうち4名が一般会員になっていただきました。第29回年会では非会員発表者が4名の予定です。本制度の退会者へのアンケート調査および学会運営に関する一般会員へのアンケート調査を実施いたします。

審議事項

役員規定等の改定

(1)役員等規定

1. 評議員の選任に当たっては、評議員2名からの推薦に基づき、理事会が推薦し、総会により承認を得る。
2. 理事の選任に当たっては、評議員の互選結果に基づき、理事長が評議員の中から指名し、理事会及び総会により承認を得る。なお、理事に欠員が出た場合には、理事長が新たに評議員の中から指名し、理事会及び総会の承認を得て、理事を追加することができる。
3. 選任時の理事及び評議員の年齢は、65歳以内とする。但し、理事会の承認を得た場合には、この限りではない。
4. 理事長の推薦により、理事の中から理事会の承認に基づき、副理事長を選任することができる。理事長が職務を遂行できない場合、副理事長はその職務を代行する。
5. 理事長の退任に当たっては、新理事長を理事の中から互選する。
6. 総務担当理事及び会計担当理事は、理事の中から互選する。
7. 年会長は、理事会の推薦に基づき、理事長が委嘱し、総会により承認を得る。
8. 監事は、理事以外の会員2名に理事長が委嘱する。
9. 通常、役員任期は3年とし、再任を妨げない。
10. 理事会の議決は、理事の過半数をもって行う。
11. 評議員会の議決は、評議員の過半数をもって行う。
12. 本規定の改定は、総会の承認を要する。

人事

(1)名誉会員（理事会メール審議・承認済み）：該当者なし

(2)特別名誉会員

運営委委員から、Jack Dean博士、Mike Luster博士を推薦

(3)理事（2022年10月～2025年9月）（五十音順：下線は新理事）

間 哲生	井上 智彰	<u>大石 巧</u>	<u>小川 久美子</u>	串間 清司	<u>久保 千代美</u>	黒田 悦史
小池 英子	小島 弘幸	斎藤 嘉朗	<u>坂入 鉄也</u>	<u>角 大吾</u>	<u>中西 剛</u>	中村 亮介
西村 泰光	<u>福山 朋季</u>	山浦 克典	吉岡 靖雄	吉田 貴彦	吉田 安広	

(4) 評議員候補 柳澤 利枝 先生

国立環境研究所 環境リスク・健康領域 病態分子解析研究室

推薦者：吉岡靖雄 評議員、小池英子 評議員

足利 太可雄 先生

国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 安全性予測評価部

推薦者：齋藤嘉朗 評議員、小川久美子 評議員

(5) 年会長

2023年度年会長交代

2024年度年会長

中村亮介 理事（国立医薬品食品研究所@川崎）

黒田悦史 理事（兵庫医科大学）

日本免疫毒性学会事業計画（案）（2022年10月から2023年9月）

1. はじめに

2022年度から新たな理事の任期（3年間）となります。理事（候補）の顔ぶれをみますと環境物質や医薬品などの免疫毒性の基礎研究や評価系のエキスパートが揃っていることから幅広い分野での活動が期待されます。運営委員会の一部の委員も代わるものと思われます。2023年9月には第30回学術年会の開催を予定しています。日本毒性学会などの国内関連学会をはじめ米国トキシコロジー学会免疫毒性専門部会（SOT-ITSS）との交流も継続して参ります。同時に、本学会に期待される学術的専門性に対する責任を果たすべく、本学会が委託を受ける事業についても積極的に取り組みます。

2. 事業計画（2019年10月から2020年9月まで）

1) 運営委員会の開催

年2回（2022年12月と2023年7月）、リモートで開催の予定です。

2) 理事会開催

2023年9月に川崎にて開催の予定です。

3) 総会の開催

2023年9月に川崎にて開催の予定です。

4) 第30回日本免疫毒性学会学術年会（2023年）の開催

中村亮介理事を年会長に2023年9月に川崎市内の会場で開催いたします。テーマは「社会に求められる新たな免疫毒性研究」です。

5) ImmunoTox Letterの発行

下記の2号の刊行を予定しています。

27巻第2号（通巻54号、2022年12月号）

28巻第1号（通巻55号、2023年6月号）

6) 学会賞及び奨励賞の選考

第13回（2022年度）学会賞・奨励賞の選考を行います。

7) 第31回日本免疫毒性学会学術年会(2024年)の準備

第31回日本免疫毒性学会学術年会（2024年）の年会長は、理事長が委嘱し総会で承認を得たのち企画を開始します。

8) 関連学会等との連携

関連学会等との連携により、免疫毒性をテーマとしたシンポジウム等を企画します。

第30回日本免疫毒性学会学術年会（東京、2023年）を第80回日本産業衛生学会アレルギー・免疫毒性研究会と共同開催します。

第50回日本毒性学会学術年会（2023年）において、隔年で開催される日本毒性学会との合同シンポジウムを開催します。

第63回米国トキシコロジー学会学術年会（2024年）におけるSOT-ITSSとの合同シンポジウム開催を企画します。企画の締め切りが2023年5月となる見込みで同年1月頃からSOT-ITSSのメンバーとの折衝を開始する予定です。

日本免疫毒性学会事業計画（案）（2022年10月から2023年9月）

3. 事務局及び諸委員会の活動

以下の活動を予定し、詳細は新理事長のもと各委員会の担当理事を選任後、運営委員会（2022年12月及び2023年7月に開催予定）で検討されます。

1) 事務局

・会員の異動、会員（名誉・一般・学生・賛助会員・休会員）数の推移と会費納入状況の把握、自動退会（会費未納退会）の整理等の事務
・外部からの問い合わせ対応

2) 財務

・財務管理
・決算書及び予算書の作成

3) 学術・編集委員会

ImmunoTox Letterの編集・発行を年2回行い、学会ホームページに掲載するとともに、会員に対してメールマガジンにて周知を図ります。また、英語版の発行も継続して行います。

第13回（2022年度）学会賞及び奨励賞の選考のため、学会賞等選考小委員会委員長を指名し、受賞候補者の選考を依頼します。

4) 広報委員会

引き続き、学会ホームページのタイムリーな更新を行い、英文ホームページの充実に努めるとともに、Facebook及びTwitterからの発信を積極的に行います。バナー広告企業が減少していることから、積極的な勧誘を行います。

5) 試験法委員会

第30回学術年会（川崎、2023年）では、年会長と連携しながらワークショップを開催します。

JaCVAMから日本免疫毒性学会が依頼を受けたAOP（Adverse Outcome Pathway）の開発に引き続き取り組んでいきます。以下の通り成果発表を行う予定です。

2022年12月：最終化された AOP154 に関してImmunoTox Letter 27 巻第2号（通巻54号、2022年12月号）への寄稿予定。

2022年10月：有害大気汚染物質の健康リスク評価手法に関するセミナー

2022年11月：日本動物実験代替法学会 シンポジウム

2022年12月：日本毒性学会 医薬品毒性機序研究会

6) 連携学会委員会

SOT-ITSSの協力のもと、第30回学術年会（2023年）の特別講演の講師を選考します。

第50回毒性学会学術年会（2023年、横浜）において、隔年で開催される同学会との合同シンポジウムを企画・開催いたします。

第63回米国トキシコロジー学会年会（2024年3月）でのSOT-ITSSとの共同シンポジウムの企画をITSSとの連絡を密にして進めます。SOT2023でのITSSミーティングには西村泰光先生及び福山朋希先生に出席していただく予定です。

7) 将来構想委員会

学会の持続的発展を可能とするため、特に若手会員の新規参入者を増やすための方策について検討を続けます。年会やシンポジウムの形態について模索します。

4. 予算

1) 2022年修正予算（案）（会計年度：2022年4月1日～2023年3月31日）

2) 2023年度予算（案）（会計年度：2023年4月1日～2024年3月31日）
いずれも、別紙のとおりです。

**第30回日本免疫毒性学会
学術年会案内
中村亮介次期年会長**



第30回日本免疫毒性学会学術年会（川崎）
テーマ 「社会に求められる新たな免疫毒性研究」
年会長 中村亮介（国立医薬品食品衛生研究所）



第30回日本免疫毒性学会学術年会（川崎）

【会場】 Shimadzu Tokyo Innovation Plaza または 川崎市産業振興会館、
および 川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)大会議室

【日程】 2023年9月（調整中）

【予定企画】

- ・ 第30回記念講演
- ・ 教育講演「重症薬疹の発症機序（仮）」
- ・ シンポジウム「新規モダリティ医薬品・ワクチン開発関連（仮）」
- ・ サテライトシンポジウム「環境化学物質の免疫毒性リスク評価（仮）」

【組織委員】

田中庸一（国立医薬品食品衛生研究所・医薬安全科学部）、小川久美子（同・病理部）、
石井明子（同・生物薬品部）、中村亮介、連携学会委員会委員長

多くのみなさまのご参加をお待ちしております。